

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム菊川 東ユニット		
所在地	静岡県菊川市堀之内1464		
自己評価作成日	平成29年8月5日	評価結果市町村受理日	平成29年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2296800028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2296800028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菊川GHの運営理念は、『安らぎと喜びの家』です。  
 ・あなたの気持ちを大切にします。・あなたのしたい事を叶えます。と項目にありますように、入居者様の気持ちに寄り添えることを一番にと考えております。ご家族様には、日頃の生活のご様子をお伝えする事を大切にして、お便り、面会時、電話等でお伝えする事を大切にして、ご家族様にも安心して頂ける様に、信頼関係を築ける様に努めております。  
 またご家族様や地域の方々に、ホームに足を運んで頂ける機会を作っております。  
 日頃多くのボランティア様にお世話になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前管理者から当時の介護支援専門員が引き継ぎ1年、以前からの財を大切にさらに良い面を膨らめている事業所です。前回の外部評価で課題としていた地域交流については園児来訪が昨年からはまり、遊戯や銭太鼓披露などで賑わっています。またボランティアは傾聴が月2回と定着し腹話術も続く中「此処をもっと知ってもらいたい」との想いからハンドベル、フランダースとメニューが増えています。もともと介護計画を核とした丁寧な取組みに秀でており、サービス担当者会議資料は全職員で記入することを旨とし、「家族と」「職員と」それぞれのサービス担当者会議の要点が2枚あることは本件に真摯に向き合っている証として秀逸です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝や夕方のの申し送りで理念の唱和を行いその内容を確認しながら共有しています。地域での行事がある時は、入居者様と参加出来るように、計画しています。	1日の仕事が終わってホッとしたとき、「今日は理念通りにできたかな」と振り返って欲しいということは常々管理者から伝えていて、利用者の言葉を逃さずケアサービスに邁進している様子を見る度、浸透を受けとめています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板、広報誌などで地域の行事の情報収集をして、近隣でのイベントは見学に行ったり地域の方とお話しをして交流しています。買物に出掛けて行ったときには、昔からの顔なじみの方と合ったりとふれあいの機会になっています。	職員と縁のある保育園からの園児来訪が昨年からは始まり、遊戯や銭太鼓披露などで賑わっています。またボランティアは傾聴が月2回と定着し、腹話術も続く中「此処をもっと知ってもらいたい」との想いからハンドベル、ハーモニカ、フランドダンスとメニューが増えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校からの福祉体験授業の受け入れを行っています。高校生のインターンシップの受け入れも行っており、認知症について知っていただく機会になっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の定期開催を実施しており、菊川市職員、民生委員、近隣の方、ご家族様に参加していただき、ホームの状況報告や参加の皆様から情報提供いただいています。	行政、地域、利用者、家族、職員とほぼ理想といえる構成員を以て隔月開催できています。近くの薬局からは「認知症の薬」講話に協力があったり、地域包括支援センターの「またきてカフェ(気軽な相談、おしゃべり会)」の案内があたりと、出席の家族に役立つ内容が目を惹きます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加のご協力をいただいています。また運営に関する事では、市役所を訪問して情報提供頂ける様に協力関係を築いています。	「日程は地域の皆さんを優先して…」と親身な言葉も届き、運営推進会議に毎回足を運んでくださる菊川市介護保険係と地域包括支援センターの応援に助けられ、新管理者は初めての1年を乗り越えることができています。	此処1年は余裕がなかったことと思いますが、今期は是非オレンジリングの普及活動に復帰し、行政の期待に応えられるとのおいしいと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルがあり、全社的に身体拘束防止の取り組みをしています。ユニット会議や職員会議で、定期的に研修を開催しています。	年間研修にも位置付けられているほか、資料に基づいた職員の合議、振り返りを丁寧におこなう場を設けたことで、「あなたもそう思っていたのね」「私にはイライラがわからない」と率直な意見交換ができ、「皆でゆっくりやっっていこう」との言葉に結ばれる有意義な機会をつくっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を定期的に行ない、また日々の業務の中でも虐待のないケアの理解を深められるように、マスコミで話題になった事例なども話題に挙げて学ぶ機会を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するホーム内研修は行っていますが、制度の内容把握や周知は充分には出来ていませんので、今後の課題とします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の読み合わせを行い、不安や疑問点の確認を行っています。その後の問い合わせなどにも対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、運営推進会議の場を利用してご意見をいただいています。年1回ですが、ご家族様アンケートも実施して情報収集を行い、その内容についてもご家族様に報告しています。	法人が年度で家族アンケートを実施しており、忌憚ない意見が挙がっていてありがたい(本年の集計結果は未着)、速やかな改善に取り組んでいます。普段は個人状況も含んだ個別の「愛の家菊川通信」を毎月家族へ届け、介護計画書の更新では家庭訪問して情報交換することもあります。	運営推進会議と併催という形も良いかと思っておりますので、家族会があると良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を毎月1回開催して、意見を聞く機会を設けています。すぐ実施できることは対応して、検討が必要な事に関しては、上司に相談したり、ホーム全体で考えています。	会議では発言量に格差があった為、ユニットリーダーから「意見がでるように、委員会活動を立ち上げたい」と心強い進言があり、秋から「行事」「美化」「リスク」がスタートする予定です。また利用者の日中活動量を増やすために出勤時間を調整する案も挙がっていて頼もしい限りです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回本社にて職員アンケートを実施して、職員の意識調査を行っています。働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒社員については、本社にて研修を実施しており、中途採用の職員に関しては、法人内の研修を受けています。今後は外部研修を受ける機会も作っていきたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの連絡協議会に参加して、他の事業所様と情報交換をしたり、事例検討会にも参加しています。資質向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中での言葉、仕草などを大切にして、入居者様が安心して生活していただけるように努めています。入居時には、信頼関係を築く事を大切にしていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談に来られた時からご家族様のことばを大切にして、ニーズの把握に努めています。ご家族様の要望がサービス計画書に反映できるように関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様に入居者様の生活歴や要望等を書いていただき、必要とする支援、サービスにつながるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近すぎず、遠すぎずの関係作りに努め、一緒にいて安心できる職員になれるように、信頼関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子をお伝えしたり、ご相談の電話などとして、一緒に考えていただいています。通院の協力もお願いしており、普段から体調面の連絡もしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にセンター方式のシートを記入していただき、今までの生活歴の把握に努め、ホームに入居されても関係が継続できるように努めています。	市社協を通じてボランティアを探してもらって囲碁が好きな利用者の相手が見つかり、「家(自宅)を見に行きたい」「天ぷら食べたい」といった事柄は記録共有とともにフットワークよく実現につなげています。飲酒、喫煙もOKとしており、通い慣れた美容室を継続する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や普段過ごされる席の配置等、入居者様同士の相性や性格等も考慮して決めています。認知症の症状や新しい入居者様が入られた時は、気を配っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡先などはしばらくの間保管して、いつでも連絡が取れるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット内に気づきシートを置き、スタッフ全員で生活の様子、言葉等を記入しています。また担当者もアセスメントシートや気づきシートを記入して把握に努めています。	介護計画書更新時の家庭訪問では「コンビニエンスストアでの買い物が楽しみだったんだあ」等新しい情報を得ています。またふまねっと、ミックルアートといった、コミュニケーションツールが法人主導で用意され、本人の想いや意向を拾う機会も多様にあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様にも協力いただき、生活歴、暮らし方等を聞ける時間を作ったり、センター方式のシートで把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に心身の状態や変化、支援が必要だった事、残存能力を記入して、チームで共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様からホームでの生活の意向をお聞きしています。入居者様の日々言われる言葉も傾聴して、介護記録やアセスメント用紙に記録し、ケアスタッフとも話し合っケアプランを作成しています。	サービス担当者会議資料(気づきシート)はユニット全員で記入することを旨とし、「家族と」「職員と」での話し合いの結果が各1枚ずつ、総計でサービス担当者会議の要点が2枚あることは本件に真摯に向き合っている証として秀逸です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、気づきシート、アセスメントにはいろいろな気づきや変化を記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の個別の希望に添った外出や、ご家族様の状況や希望に応じて通院介助への対応を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用としては、ご近所で行われる行事に出掛けたり、喫茶店にでかけたりしていますが、今後もっと地域資源を活用していきたいようにしたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、現状の医師を希望される方も多です。かかりつけ医との関係も大切に考え、体調不良時の受診にはできるだけ付け添えるように配慮しています。	大半が在宅の頃の医師を続けて家族が通院介助していますが、無理な事情があれば職員が代行しています。協力医に変更した4名の内3名が訪問診療を受け、1名は職員が通院介助しています。メモを持参するほか体調変化がみえたら職員も同行し、漏れの無い様努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護申し送り簿にスタッフが記入して、看護師が回答したり、相談にのる事で連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェイスシートを提供しながら、病棟看護師や地域連携室に情報提供を行っています。またその時に、入居者様の認知症の症状や日頃のご様子もお伝えして、困る事が少なくなるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に説明を行い、書面にて同意のサインをいただいています。入居者様の体調の変化があった時には、重度化した場合のあり方について等、ご家族様にもお気持ち等をお聞きしています。	重度化すると特別養護老人ホームや病院に移設する人が多くいたため、看取り実績は2例です。「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取り介護にかかる指針」の書面を備え、入居時の説明はおこなっていますが「詳しいことは体調の変化があったときに」としています。	馴染みの関係継続ができていない反面医師が何名もいて、看取りにはやや不安が残ります。医療体制及びネットワークの再構築検討への着手を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて定期的に訓練を行っています。急変や救急対応があった時は、その状況を全スタッフで共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)避難誘導訓練を行っています。日勤帯や夜勤帯で避難想定をして訓練を実施し、地域の方やご家族にも見学していただいています。地域の防災訓練にも入居者様と参加しています。	年2回の法定訓練では建物のオーナーにも加わってもらい、民生委員本人の申し出から連絡網のなかに名前も挙り、少しずつ共助が進んでいます。備蓄の非常食は消費期限になれば試食会で水や火加減などを探求し、利用者の意見も聞いています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族様に性格や生活歴をお聞きしながら、おひとりおひとりに適した言葉掛けや対応を心掛けています。また呼び名などはご本人の希望も聞いています。	朗らかな挨拶が蔓延していて、気持ちの良い事業所です。「ボランティアの来所により、外部の人の目に触れる機会が増えると良い」との考えを以て向上の姿勢を持ち続け、「～さん」との呼び方も自然に出来ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、さりげなくご希望をお聞きしたり、日常生活の中でも自己決定が出来る機会を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで生活出来るように気を配り、集団の対応より個別の対応を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時は、好きな洋服を選ぶことができるように関わったり、髪型も訪問カットの方にも好きな髪型を選んだり、言えたりと自己決定ができるように関わっていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全ての入居者様に関わる事はできていないが、日々の食事準備や、行事食の準備やおやつ作り等を計画して、一緒に楽しんで出来るようにしています。	食事に係る症状も様々ですが「やってはだめ」という言葉も出ず、本人本位での食事風景があります。職員も同じ献立でテーブルを囲み、身近な話材を投げかけて会話を廻す支援も視認しました。調理は外部の専任者がおこなっていますが、洗い物などは利用者も手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からの献立をもとに、食事を提供しています。 食事量や水分摂取量は、バイタル表に記入して把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアを実施し、体調や入居者様の力に合わせて歯ブラシやスポンジブラシの使用や、スタッフの仕上げ磨きなどの援助も行っていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理票にて、入居者様の排泄を把握しています。トイレへのお誘いのタイミングを検討したり、尿取りパットの使用量の削減、自立に向けての紙パンツやパットの種類も検討しています。	2ユニットトータルで9箇所(内職員用2)のトイレが配され、潤沢です。「睡眠・排尿・排便チェック表」を時間毎につけて、ひと目でその人のリズムが解る一覧表を作成していて、個々の状態に応じた支援があることが覗えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分、睡眠などの生活全般を整え、便秘症状のある方は看護師に相談をしています。 入居者様それぞれに合った、便秘解消法も全スタッフで検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の入りたい時間に添う事が出来るように、午前、午後とその日の気持ちに合わせて対応しています。香りを楽しむ事でリラックスもして頂ける様に、柚子湯やアロマオイルも利用しています。	週2日を最低回数として希望があれば応えています。双方のユニット共に一般家庭の浴槽のため、またぐことができなくなるとシャワーチェアにせざるをえませんが、演歌を歌ったりアロマの香りをくゆらせたり、また湯は毎回入れ替えて中で身体をこすりたい人の希望にも叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居される前の自宅での生活パターンを把握し、日中の昼寝の時間や、ソファでもゆっくりできるように、声掛けしています。 夜は気持ちが安定して入眠出来るように、夜はゆったりとした対応を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の情報が見られるように、各ユニットに投薬一覧表のファイルが置いてあり、処方があった度にファイリングしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様からの情報や入居者様に好きな事ややりたい事をお聞きしています。洋裁が好きな方、調理の盛り付けが得意な方、洗いや洗濯物たたみが上手な方、それぞれのお好きな事で役割を持って楽しく生活していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	誕生日のイベントなどで、希望の場所や外食に出掛けたり、毎日の生活で、行きたいという気持ちに添って外出先を決めています。なじみの所もご家族様にお聞きして出かけています。	外出については初詣、花見が年中行事としてあります。散歩では立ち話できる箇所も増え、交流ではペットの犬も馴染みとなっています。要望に応じたドライブ外出では会話が拡がり「じゃあ、あそこへも」と次々と巡るとともに回想が膨らみ、大満足で帰って来れる日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で管理することは難しい方が多いので、ホームの事務所で管理しています。食材の買い物と一緒に出かけた時には、入居者様に会計の支払いをお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は、相手側の事情も把握してスタッフが間に入り対応しています。年賀状のやり取りなどは、スタッフが代筆したり、住所のみ代筆したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やユニットの壁面等は季節を感じる事が出来るように、入居者様と一緒に作っています。入居者様も一緒に作った作品を見て、喜んでくださっています。	天窓の光がダイレクトに入らないよう布カバーをつけたり、掲示の高さも揃って5Sが行き届き、清浄な空気が流れています。季節の掲示が鮮やかで、「利用者を大切にしている」感が漂います。	全体としては申し分なくきれいですが、幾つか清掃箇所から漏れていると思われるところがあるため、今一度清掃ポイントを見直すことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒にいながらも、リラックスできる空間にお誘いしています。ソファも皆さんのくつろぎの場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の家具、使い慣れた物を使って生活が出来るように、ご家族様と相談しながら、安全に暮らせるように、家具の配置などにも気を配っています。	数えきれないほどの孫のいる人の居室には、色鉛筆やクレヨンで描いた愛らしい絵や手紙、作品、写真が壁いっぱい貼り出され、幼児用の小さな椅子も備わり、在宅の頃のままに家族とともに在ることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の身体的特徴を理解して、導線となるところには危険がないか、気を配っています。またユニットの中で、出来る事。わかる事が増えるように努めていきたいです。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム菊川 西ユニット		
所在地	静岡県菊川市堀之内1464		
自己評価作成日	平成29年8月5日	評価結果市町村受理日	平成29年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2296800028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2296800028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菊川GHの運営理念は、『安らぎと喜びの家』です。  
 ・あなたの気持ちを大切にします。・あなたのしたい事を叶えます。と項目にありますように、入居者様の気持ちに寄り添えることを一番にと考えております。ご家族様には、日頃の生活のご様子をお伝えする事を大切にして、お便り、面会時、電話等でお伝えする事を大切にして、ご家族様にも安心して頂ける様に、信頼関係を築ける様に努めております。  
 またご家族様や地域の方々に、ホームに足を運んで頂ける機会を作っております。日頃多くのボランティア様にお世話になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前管理者から当時の介護支援専門員が引き継ぎ1年、以前からの財を大切にさらに良い面を膨らめている事業所です。前回の外部評価で課題としていた地域交流については園児来訪が昨年からはまり、遊戯や銭太鼓披露などで賑わっています。またボランティアは傾聴が月2回と定着し腹話術も続く中「此処をもっと知ってもらいたい」との想いからハンドベル、フランダースとメニューが増えています。もともと介護計画を核とした丁寧な取組みに秀でており、サービス担当者会議資料は全職員で記入することを旨とし、「家族と」「職員と」それぞれのサービス担当者会議の要点が2枚あることは本件に真摯に向き合っている証として秀逸です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝や夕方の方の申し送りで理念の唱和を行いその内容を確認しながら共有しています。地域での行事がある時は、入居者様と参加出来るように、計画しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板、広報誌などで地域の行事の情報収集をして、近隣でのイベントは見学に行ったり地域の方とお話しをして交流しています。買物に出掛けて行ったときには、昔からの顔なじみの方と合ったりとふれあいの機会になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校からの福祉体験授業の受け入れを行っています。高校生のインターンシップの受け入れもっており、認知症について知っていただく機会になっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の定期開催を実施しており、菊川市職員、民生委員、近隣の方、ご家族様に参加していただいて、ホームの状況報告や参加の皆様から情報提供いただいています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加のご協力をいただいています。また運営に関する事では、市役所を訪問して情報提供頂ける様に協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルがあり、全社的に身体拘束防止の取り組みをしています。ユニット会議や職員会議で、定期的に研修を開催しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を定期的に行ない、また日々の業務の中でも虐待のないケアの理解を深められるように、マスコミで話題になった事例なども話題に挙げて学ぶ機会を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するホーム内研修は行っていますが、制度の内容把握や周知は充分には出来ていませんので、今後の課題とします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の読み合わせを行い、不安や疑問点の確認を行っています。その後の問い合わせなどにも対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、運営推進会議の場を利用してご意見をいただいています。年1回ですが、ご家族様アンケートも実施して情報収集を行い、その内容についてもご家族様に報告しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を毎月1回開催して、意見を聞く機会を設けています。すぐ実施できることは対応して、検討が必要な事に関しては、上司に相談したり、ホーム全体で考えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回本社にて職員アンケートを実施して、職員の意識調査を行っています。働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒社員については、本社にて研修を実施しており、中途採用の職員に関しては、法人内の研修を受けています。今後は外部研修を受ける機会も作っていきたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーの連絡協議会に参加して、他の事業所様と情報交換をしたり、事例検討会にも参加しています。資質向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中での言葉、仕草などを大切にして、入居者様が安心して生活していただけるように努めています。入居時には、信頼関係を築く事を大切にしていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談に来られた時からご家族様のことばを大切にして、ニーズの把握に努めています。ご家族様の要望がサービス計画書に反映できるように関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様に入居者様の生活歴や要望等を書いていただき、必要とする支援、サービスにつながるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近すぎず、遠すぎずの関係作りに努め、一緒にいて安心できる職員になれるように、信頼関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子をお伝えしたり、ご相談の電話などを通して、一緒に考えていただいています。通院の協力もお願いしており、普段から体調面の連絡もしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にセンター方式のシートを記入していただき、今までの生活歴の把握に努め、ホームに入居されても関係が継続できるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や普段過ごされる席の配置等、入居者様同士の相性や性格等も考慮して決めています。認知症の症状や新しい入居者様が入れられた時は、気を配っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡先などはしばらくの間保管して、いつでも連絡が取れるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット内に気づきシートを置き、スタッフ全員で生活の様子、言葉等を記入しています。また担当者もアセスメントシートや気づきシートを記入して把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様にも協力いただき、生活歴、暮らし方等を聞ける時間を作ったり、センター方式のシートで把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に心身の状態や変化、支援が必要だった事、残存能力を記入して、チームで共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様からホームでの生活の意向をお聞きしています。 入居者様の日々言われる言葉も傾聴して、介護記録やアセスメント用紙に記録し、ケアスタッフとも話し合っケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、気づきシート、アセスメントにはいろいろな気づきや変化を記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の個別の希望に添った外出や、ご家族様の状況や希望に応じて通院介助への対応を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用としては、ご近所で行われる行事に出掛けたり、喫茶店にでかけたりしていますが、今後もっと地域資源を活用していきたいようにしたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、現状の医師を希望される方も多です。かかりつけ医との関係も大切に考え、体調不良時の受診にはできるだけ付き添えるように配慮しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護申し送り簿にスタッフが記入して、看護師が回答したり、相談にのる事で連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェイスシートを提供しながら、病棟看護師や地域連携室に情報提供を行っています。またその時に、入居者様の認知症の症状や日頃の様子もお伝えして、困る事が少なくなるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に説明を行い、書面にて同意のサインをいただいています。入居者様の体調の変化があった時には、重度化した場合のあり方について等、ご家族様にもお気持ち等をお聞きしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて定期的に訓練を行っています。急変や救急対応があった時は、その状況を全スタッフで共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)避難誘導訓練を行っています。日勤帯や夜勤帯で避難想定をして訓練を実施し、地域の方やご家族にも見学していただいています。地域の防災訓練にも入居者様と参加しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族様に性格や生活歴をお聞きしながら、おひとりおひとりに適した言葉掛けや対応を心掛けています。また呼び名などはご本人の希望も聞いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、さりげなくご希望をお聞きしたり、日常生活の中でも自己決定が出来る機会を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで生活出来るように気を配り、集団の対応より個別の対応を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時は、好きな洋服を選ぶことができるように関わったり、髪型も訪問カットの方にも好きな髪型を選んだり、言えたりと自己決定ができるように関わっていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全ての入居者様が関わる事はできていないが、日々の食事準備や、行事食の準備やおやつ作り等を計画して、一緒に楽しんで出来るようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からの献立をもとに、食事を提供しています。 食事量や水分摂取量は、バイタル表に記入して把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアを実施し、体調や入居者様の力に合わせて歯ブラシやスポンジブラシの使用や、スタッフの仕上げ磨きなどの援助も行っていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理票にて、入居者様の排泄を把握しています。トイレへのお誘いのタイミングを検討したり、尿取りパットの使用量の削減、自立に向けての紙パンツやパットの種類も検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分、睡眠などの生活全般を整え、便秘症状のある方は看護師に相談をしています。 入居者様それぞれに合った、便秘解消法も全スタッフで検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の入りたい時間に添う事が出来るように、午前、午後とその日の気持ちに合わせて対応しています。香りを楽しむ事でリラックスも頂ける様に、柚子湯やアロマオイルも利用しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居される前の自宅での生活パターンを把握し、日中の昼寝の時間や、ソファでもゆっくりできるように、声掛けしています。 夜は気持ちが安定して入眠出来るように、夜はゆったりとした対応を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の情報が見られるように、各ユニットに投薬一覧表のファイルが置いてあり、処方があった度にファイリングしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様からの情報や入居者様に好きな事ややりたい事をお聞きしています。洋裁が好きな方、調理の盛り付けが得意な方、洗いや洗濯物たたみが上手な方、それぞれのお好きな事で役割を持って楽しく生活していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日のイベントなどで、希望の場所や外食に出掛けたり、毎日の生活で、行きたいという気持ちに添って外出先を決めています。なじみの所もご家族様にお聞きして出かけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で管理することは難しい方が多いので、ホームの事務所で管理しています。食材の買い物と一緒に出かけた時には、入居者様に会計の支払いをお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は、相手側の事情も把握してスタッフが間に入り対応しています。年賀状のやり取りなどは、スタッフが代筆したり、住所のみ代筆したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やユニットの壁面等は季節を感じる事が出来るように、入居者様と一緒に作っています。入居者様も一緒に作った作品を見て、喜んでくださっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒にいながらも、リラックスできる空間にお誘いしています。ソファも皆さんのくつろぎの場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の家具、使い慣れた物を使って生活が出来るように、ご家族様と相談しながら、安全に暮らせるように、家具の配置などにも気を配っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の身体的特徴を理解して、導線となるところには危険がないか、気を配っています。またユニットの中で、出来る事。わかる事が増えるように努めていきたいです。		